



WILD BIRD SOCIETY OF JAPAN · SAITAMA

# しらこぼと

## 2007.5

No. 277

日本野鳥の会 埼玉県支部

S H I R A K O B A T O



# 身近な探鳥地 大宮公園とその周辺

浅見 徹(さいたま市大宮区)

私の住まいは、大宮公園・大宮第二公園そして大宮第三公園と三つの公園に囲まれています。週末には、愛犬との散歩の際に双眼鏡を首にぶら下げて、鳥見を楽しんでいます。

## 大宮公園

武蔵の国一ノ宮、歴史ある氷川神社の後背地で、森鷗外など明治の文人墨客に愛された古い公園です。赤松と桜の疎林が中心です。

留鳥はキジバト、ヒヨドリ、シジュウカラ、スズメなどですが、冬には色々な野鳥が訪れます。松林の地面にはビンズイの群れ。カヤクグリが2年続けて越冬したこともあります。2006年1月～3月には、ルリビタキもここで一冬を越しました。

ポート池にはカモ類とユリカモメの群れ。運が良いとカワセミにも会えます。

氷川の森はカラスの囃で、昨冬(2006年1月)とこの冬(2006年12月)にはミヤマガラスも確認できました。

忘れてならないのが夏のアオバズク。2006年にも2羽の雛が巣立ちました。

渡りの時期にはムシクイ類、オオルリ、キビタキなども通過しているようです。

## 大宮第二公園

公園内は林が少なく野鳥は通過するだけで、季節ごとに色々な野鳥が現れます。

冬は、ツグミ、アカハラが見られます。

初夏はカッコウ、ホトトギスの声が聞こえ



アカハラ(松村禎夫)

てきます。公園の東側を流れる芝川沿いが、絶好の探鳥地です。

春から夏にかけての子育てシーズンが毎年楽しみです。カイツブリ、バン、カルガモは年々増えているような気がします。芝川東岸の大和田緑地ではカワセミも繁殖しています。

## 大宮第三公園

三つの中で一番新しい公園で、園内の池畔に野鳥観察小屋があり冬季はカモ類が楽しめます。この冬(2006～2007年)はヨシガモが越冬しました。

池の周りはアシ原で、夏にはオオヨシキリが数組営巣します。このアシ原ではバンも繁殖します。

公園の東側を流れる芝川沿いも面白いです。この目玉は冬場のオカヨシガモ。なぜかここに毎年10羽以上の群れで居つきます。

## 追記

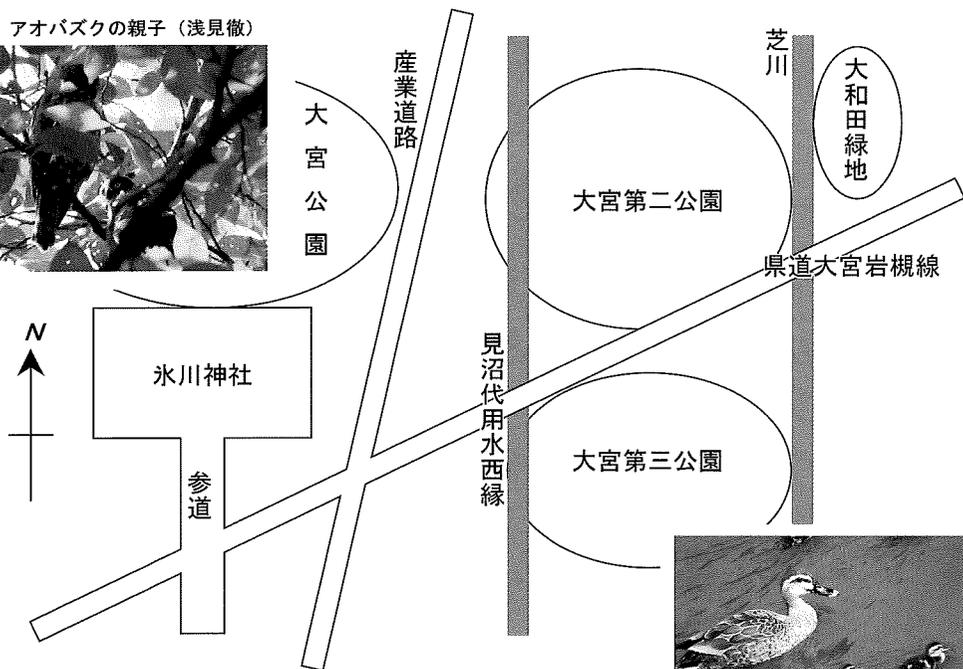
実のところ、このフィールドは探鳥コースというよりも、愛犬との散歩コースで、散歩のついでに鳥を見るというレベルです。しかし、記録をとっていたので、今までのメモをひっくり返してまとめたのが表1の観察記録です。

1999年1月から2007年1月の期間で、ちょうど100回分ですが、約半分の49回が2006年の記録です。こうやって整理してみると面白いですね。身近にもこんなに沢山の野鳥がいるのですね。町中の、この貴重な自然がいつまでも残り続けることを祈ります。

いつか、この三つの公園を巡る探鳥会を開きたいと思っています。

だって、私だけじゃ、もったいない!

アオバズの親子（浅見徹）



- ・大宮公園へは東武野田線 大宮公園駅が便利です。
- ・JR大宮駅東口から東武バス「大50」で芝川に出られます。
- ・JR大宮駅から徒歩で参道に行くのもお勧めです。



カルガモの親子（浅見徹）

表1. マイフィールド観察リスト

No.	種名	確認回数	No.	種名	確認回数	No.	種名	確認回数
1	カイツブリ	34	26	タシギ	7	51	ウグイス	11
2	カワウ	19	27	ユリカモメ	16	52	オオヨシキリ	8
3	ゴイサギ	13	28	セグロカモメ	4	53	エゾムシクイ*	1
4	ダイサギ	1	29	コアジサシ	11	54	センダイムシクイ	1
5	コサギ	20	30	キジバト	38	55	セッカ	2
6	アオサギ	18	31	カッコウ	1	56	サンコウチョウ*	1
7	マガモ	5	32	ホトギス*	4	57	ヤマガラ	2
8	カルガモ	43	33	アオバズク	2	58	シジュウカラ	35
9	コガモ	29	34	カワセミ	27	59	メジロ	23
10	ヨシガモ	1	35	アオゲラ	1	60	ホオジロ	23
11	オカヨシガモ	8	36	アカゲラ	1	61	カシラダカ	1
12	ヒドリガモ	5	37	コゲラ	13	62	アオジ	17
13	オナガガモ	36	38	ヒバリ	13	63	オオジュリン	6
14	ハシビロガモ	19	39	ツバメ	5	64	アトリ	2
15	ホシハジロ	37	40	ハクセキレイ	36	65	カワラヒワ	23
16	キンクロハジロ	33	41	セグロセキレイ	24	66	イカル*	1
17	オオタカ	1	42	ビンズイ	11	67	シメ	14
18	ツミ	1	43	ヒヨドリ	40	68	スズメ	47
19	チョウゲンボウ	2	44	モズ	14	69	コムクドリ	1
20	コジュケイ*	1	45	カヤクグリ	1	70	ムクドリ	43
21	クイナ	4	46	ルリビタキ	5	71	カケス	4
22	バン	36	47	ジョウビタキ	9	72	オナガ	23
23	オオバン	16	48	ノビタキ	2	73	ミヤマガラス	3
24	コチドリ	3	49	アカハラ	6	74	ハシボソガラス	39
25	イノシギ	1	50	ツグミ	37	75	ハシブトガラス	43

注 1) 1999年1月～2007年1月 合計観察回数100回分のまとめ  
 2) 地鳴き・さえずりのみによる確認(\*印の5種)を含む

# 第2次県内野鳥分布調査

## 2006/2007年冬 ホオアカの今

日本野鳥の会埼玉県支部研究部

### はじめに

本調査は表1により実施された。本稿では、今回の注目種、ホオアカを報告する。

### ホオアカの越冬状況

主に越冬鳥としてのホオアカの生息状況を調査した(表2)。

1985年～1990年の第1次調査では、1:25,000地形図4分割メッシュで、荒川と利根川水系において9メッシュ確認された。今回の調査ではわずか1メッシュであった(図1)。

### おわりに

全国的に繁殖域が大幅に縮小しているホオアカは、本県でも越冬個体数が大幅に減っている結果となった。(小荷田行男)

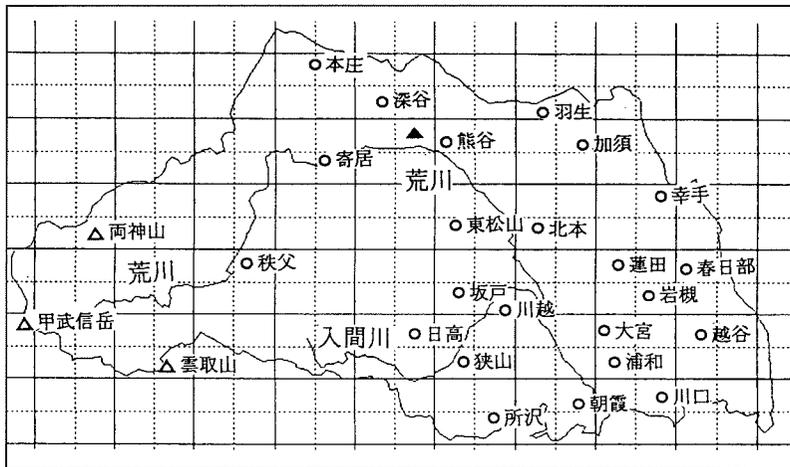
表1 調査概要

調査期間	2006年12月1日～ 2007年1月31日
調査方法	調査はがきによるアンケートほか
調査はがき	47枚
支部定例調査	35メッシュ
調査メッシュ数	120メッシュ (3次メッシュ)

表2 注目種ホオアカの調査

調査はがき数	1通
ホオアカ存在メッシュ	1メッシュ

図1 ホオアカの分布(▲)



### 夏鳥調査の注目種はコアジサシ!

#### 日本野鳥の会埼玉県支部研究部

県内全域対象に、夏鳥調査を実施します。5月10日から7月10日までの間、県内で観察された野鳥の種名と観察地を、7月号に同封する調査はがきに記入してお送りください。今回の注目種はコアジサシです。県内では

本来、荒川や利根川など、河川中流の石ころの河原でコロニーを造り繁殖します。河川状況の変化により繁殖地が減り、県南部では、大規模な住宅開発予定地が、当年限りの繁殖地として利用される傾向があります。河川や住宅開発予定地などに注目し、コアジサシのコロニーをお知らせください。(小荷田行男)

### 楽しかったたんちょう会

麻場義裕 (朝霞市・小6)

森林公園たんちょう会にさそってもらってから、とてもウキウキしていました。初めての体験で、当日は予想以上に、驚くことが多くありました。

とてもきれいな鳥(ウソ)やふしぎなもようの鳥(ヨシガモ)、めずらしい鳥(カイツブリ)などを見ました。

森林公園には家族で行ったことはありませんでしたが、地図をもらって、見ながら歩くのはおもしろかったです。

お弁当はおいしかったし、とてもきちょうな体験をしたので楽しかったです。

ありがとうございました。

### ベニバラ

榎本秀和 (鴻巣市)

今冬はウソがあちこちで出ている。数も少なくない。しかし、アカウソが多いようだ。

アカウソ♂は、胸がほんのりピンクがかつたものからベニバラウソを想起させるほどの色鮮やかなものまで、いろいろな色調の個体が見られる。

ところで、ベニバラウソの「ベニバラ」とは、「紅(くれない)の薔薇」だと、勝手にずっと思いこんでいた。なんと、ゆかしい呼称であることか、と。

しかし、最近になった気がついた。ベニバラとは、単に「紅腹」ではないのか、と。なんだか興醒めだなあ〜。

### 幸せな一日

宇野澤 晃 (さいたま市)

12月17日、三室地区探鳥会。心配された雨も降らず、ときどき日が射す、まあまあの日より。師走にもかかわらず、また、浦和レッスンの優勝とかち合っているにもかかわらず、大勢の人が参加された。

のっけから、見沼用水の脇のグランド芝生にツグミ。芝川の橋にさしかかるとカワセミが飛んで来てアシの先端にとまり、しばし美しい姿を披露してくれた。反対側の岸边にはゴイサギの幼鳥が、アシの中に隠れているの

が見えた。土手沿いに歩いていくと、岸辺の杭にキセキレイがいた。少し離れたケヤキに、スズメの群れと2羽のアカハラがとまっていた。日に照らされた腹部の赤がこのほか美しく見えた。

さらに歩くと、タヒバリが畑に降りて餌をついばんでいた。これで、セキレイ4種を全て見ることができ、ラッキー&ハッピー。

帰り道では、車が行き交う道のさらに向こうの畑の中に、すーっと首を伸ばしている雄のキジを見ることができた。

猛禽類やいつも見かけるカモ類を見ることはできなかったけれど、三室地区探鳥会での最高記録44種に迫る43種の鳥を見ることができ、1年を締めくくるにふさわしい幸せな1日でした。

### 柳瀬川にオシドリ♂

持丸順彰 (志木市)



柳瀬川にオシドリ♂1羽が来ました。2001年2月以来、久しぶりの飛来です。マガモ♀と行動を共にしています。マガモ♂が近づくとオシドリはマガモ♀を追い払っています。このオシドリはマガモ♀に恋してる？

### 見沼の狸

落合英二 (さいたま市)

見沼にタヌキがいました。畑の麦わらの中



でお休み中。その後、人をおそれる様子もなく、ゆっくりと立ち去っていきました。



## 野鳥情報

**さいたま市桜区秋ヶ瀬公園** ◇12月22日、子供の森でハイタカ1羽飛び、ウソ数羽、マヒワ約20羽、ルリビタキの声。12月25日、同所でウソ♂1羽♀4羽、マヒワ約20羽。ピクニックの森でアリスイ1羽(鈴木紀雄)。

**さいたま市桜区大久保農耕地** 12月25日、B区でノスリ1羽、オオタカ1羽(鈴木紀雄)。

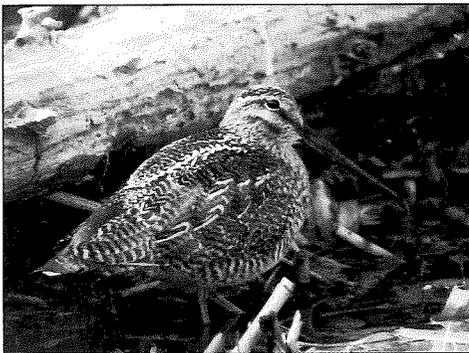
**さいたま市岩槻区岩槻文化公園** ◇12月23日、カワウ、ダイサギ、アオサギ、コサギ、マガモ♂1羽、カルガモ、コガモ、ヒドリガモ、イカルチドリ、ユリカモメ、アカゲラ♂1羽♀1羽、ハイタカ飛翔、モズ、シロハラ、ツグミ、ウグイス、ヤマガラ、シジュウカラ、アオジ、カシラダカ、シメ、ウソ(声)、カヤクグリ(声)、カケスなど計36種。1月2日、ウソ♀ばかり7羽、♂がいない。1月9日、ウソ♀ばかり5羽、ユリカモメ1羽。1月13日、マガモ♂1羽、コガモ、ヒドリガモ、イカルチドリ、イソシギ、アカゲラ、アオゲラ♂1羽、コゲラ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、キセキレイ、モズ、シロハラ、アカハラ、ヤマガラ、カシラダカ、シメ、ウソ♂1羽♀1羽、ジョウビタキ、カケスなど計35種。1月14日、久しぶりのベニマシコ♂2羽十、声のみ2羽、キジ♂1羽、首が紫色に輝き美しい。ウソ♀6羽。1月18日、カワウ、マガモ♂1羽(カルガモにピッタリくっついて)。コガモ、ヒドリガモ、イカルチドリ、アカゲラ♀1羽、カワセミ♂1羽、シロ

ハラ、アカハラ、ツグミ、ヤマガラ、シジュウカラ、メジロ、アオジ、ホオジロ、カシラダカ、シメ、ジョウビタキ、カヤクグリ2~3羽(声)、カケスなど(鈴木紀雄)。

**さいたま市岩槻区岩槻城址公園** ◇1月3日、カワセミ♀1羽、ツグミ、シロハラ、シメ(鈴木紀雄)。

**さいたま市見沼区膝子** ◇12月24日、カラス約50羽の内、15羽程がミヤマガラスで、残りはハシボソガラス。1月13日にも確認(鈴木紀雄)。

**蓮田市黒浜東埼玉病院** ◇12月24日、トラツグミ、ルリビタキ♀、ヒガラなど。1月9日、ウソ数羽、ルリビタキ、ヤマガラ、アカゲラ。藪の中で騒ぎがあり、ハイタカ飛び出し、枝にとまる。1月14日、アカゲラ♂1羽、ウソ♂1羽+数羽、ルリビタキ♀1羽等(鈴木紀雄)。◇12月25日、メジロの群れ、シジュウカラの群れ、ツグミ、カケス15羽十、カシラダカ300羽位の大群、アオジ、コゲラ、モズ、ヤマガラ2羽、コジュケイ4羽十、アカゲラ1羽、ウグイス、シロハラ5羽十。アカハラ1羽、今季やっと出会えた。12月27日、メジロ、カケス、コジュケイ、ウグイス、コゲラ、アカゲラ。シロハラの地鳴きを初めて聞く。クロジ、今季初認。12月30日、アオジ5羽の群れ、メジロの群れ、シジュウカラの群れ、シロハラ6羽、アカハラ、ウソ♂2羽、アカゲラ1羽、コゲラ1羽、ウグイス。オオタカ1羽、下面が白く美しい個体、20m位上空を通過していった。久々に見るオオタカだった。カケス多し。1月1日、カケス、アオジ多し、アカハラ2羽、シロハラ6羽、ジョウビタキ♂♀、シメ、ウソ、メジロ、ウグイス、エナガ6~7羽、アカゲラ1羽、トラツグミ1羽など。1月14日、シメ、カケス、ツグミ、シロハラ6羽、ジョウビタキ、カシラダカ50羽十、アカハラ2羽、ホオジロ、キジ♀3羽、ジシギ類不明種2羽、ウズラ1羽、藪の中で目が合った。コゲラ3羽、アカゲラ1羽、カワセミ♂1羽、ヤマガラ5羽十、シジュウカラと混群。1月19日、メジロの群れ、シジュウカラの群れ、



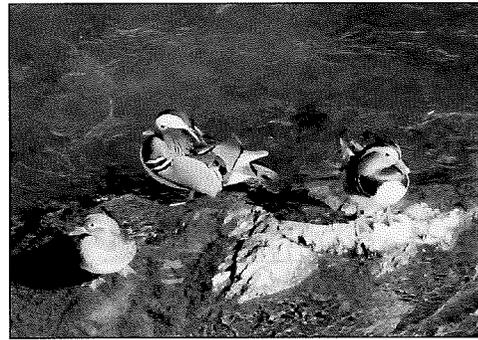
アオシギ(島田沙織里)

カシラダカの群れ、シロハラ4羽、ウソ♂2羽、クロジ♂♀混じりで5～6羽、ウグイス、カケス、コゲラ、ホオジロ、アオジなど。1月20日、ヤマガラ、コガラ、カシラダカ、シロハラ、カケス、ウグイス、コジュケイ、アカゲラ。ハイタカ1羽が低く飛んで行った(本多己秀)。

**蓮田市黒浜内沼** ◇1月14日、アシ原でベニマシコ♀1羽、ジョウビタキ♀1羽、アオジ、ホオジロ、カシラダカ、オオジュリンなど(鈴木紀雄)。

**北本市石戸宿自然学習センター** ◇1月21日、高尾の池でカイツブリ、アオサギ、コガモ、マガモなど。駐車場でウソ。あずまや付近のアシ原で、アリスイ、ウグイス、ルリビタキ、ジョウビタキ、カシラダカ、ベニマシコなど。センター付近でハイタカ(上空)、カヤクグリ、シロハラ等が見られた。カシラダカは1～2m程まで寄ってきて、驚いた(井内寛裕)。◇1月22日午後、天気が良いので自転車でバードウォッチング。直ぐにウソ3羽が桜の木の実を啄んでいた。センターの北側枯れ草の中にはカヤクグリが3羽、直ぐ近くまでやってきて、葉を裏返して草の実をたべていた。カヤクグリは昔冬の高尾山探鳥会で初めて見たことがあるが、最近では珍しい。その他ヤマガラ、シジュウカラ、カシラダカ、アオジなどが自分の足元までやってきた(立岩恒久)。

**松伏町仮称緑の丘公園** ◇1月28日、ダイサギ、アオサギ、カワウ、マガモ、カルガモ、コガモ、ハシビロガモ、ホシハジロ、ミコアイサ♂2羽♀3羽、オオタカが池のアシ原から飛び立つ。驚くバン、オオバン、インシギ、タゲリ56羽が、池の隣の田んぼに3度降りる気配を示したが、近くで模型飛行機を飛ばしていたため、結局降りなかった。残念！これ程の群れは初めて観察できた。タシギ3羽、キジバト、ヒバリ、ハクセキレイ、タヒバリ、モズ、ツグミ、シジュウカラ、ホオジロ、カシラダカ、アオジ、オオジュリン、カワラヒワ。暖冬の影響でしょうか、オオジュリン、カシラダカ、ツグミなどは早くも北へ帰る準備をしている様



オンドリ(大澤 祐)

に思えた。工事中の為、日曜日以外は観察が難しいだろう。地元の方の話では3月か4月に一部オープンする予定とのこと。オープンするとミコアイサは恐らく見られなくなるだろう(大塚操、野村修己)。

**神川町三波石峡** ◇12月23日、叢石橋上流でカワガラス2羽、ほぼ一緒に行動していた。右岸の遊歩道でミソサザイ1羽、ルリビタキ♂1羽、ジョウビタキ♂1羽、ベニマシコ♂1羽♀1羽、ウソ♂1羽♀3羽、アカゲラ♂1羽♀1羽、コガラの群れ。藪から飛び出したカヤクグリ1羽、しばらく柵にとまって姿を見せた(鈴木敬)。

**小川町西古里** ◇1月4日午前9時頃、矢号神社跡でヤマシギ1羽、落葉の積もった湿地から谷戸方面へ飛び去った(鈴木敬)。

**吉見町八丁湖** ◇1月5日、マガモ、オナガガモ、ハシビロガモ、ウソ♂♀6羽、シロハラ、シメ、エナガ、ルリビタキ♀1羽、アオジ、カシラダカなど(本多己秀)。

**川越市寺尾調節池** ◇1月24日、アリスイ1羽、ベニマシコ♀1羽。散歩の人たちにも見ていただいた(中間一郎・清美)。

**滑川町武蔵丘陵森林公園** ◇1月25日、山田大沼でトモエガモ♂1羽、展望レストランの所でアカウソ♂2羽、ルリビタキ♂1羽(鈴木昇)。

#### 表紙の写真

#### チドリ目シギ科クサシギ属タカブシギ

学名 *Tringa glareola*

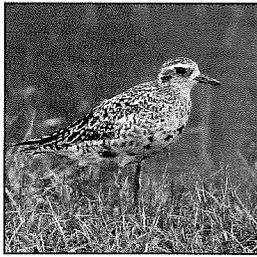
英名 Wood Sandpiper

漢字名 鷹斑鶺鴒

撮影 長野誠治(さいたま市)



## 行事案内



ムナグロ(長野誠治)

「要予約」と記載してあるもの以外、予約申し込みの必要はありません。初めての方も、青い腕章の担当者に遠慮なく声をおかけください。私たちもあなたを探していますので、ご心配なく。

参加費：一般 100 円、会員と中学生以下 50 円。 持ち物：筆記「用具、雨具、昼食、ゴミ袋、持っていれば双眼鏡などの観察用具も（なくても大丈夫）。 解散時刻：特に記載のない場合正午から午後 1 時ごろ。 悪天候の場合は中止、小雨決行です。

できるだけ電車バスなどの公共交通機関を使って、集合場所までお出かけください。

### 千葉県習志野市・谷津干潟探鳥会

期日：5月5日(土・祝)

集合：午前9時40分、JR武蔵野線南船橋駅改札口付近。

交通：JR武蔵野線武蔵浦和 8:35→南浦和 8:38→南船橋 9:29 着。(直通)

担当：杉本、手塚、長谷部、菱沼(一)、玉井、伊藤(芳)、野村(修)

見どころ：夏羽のシギ・チドリ類が干潟に勢揃いして、1年中で1番華やかになります。夏羽の赤い色から“シギもみじ”と呼ぶ人もいます。干潟のもみじは春です。埼玉ではなかなか見られない光景を見に来てください。

### 蓮田市・黒浜沼探鳥会

期日：5月6日(日)

集合：午前8時40分、JR宇都宮線蓮田駅東口バス停前。

担当：田中、玉井、吉安、長野、菱沼(一)、榎本(建)、青木、鬼塚、長嶋

見どころ：毎年5月だけはコースを変え、元荒川・川島橋から黒浜沼(環境学習会館)まで歩きます。田んぼでは田植えも一段落し、早苗の緑が揺れています。その田んぼに今年も北へ向かうムナグロが寄ってくれることを期待して……。

### 熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：5月13日(日)

集合：午前9時30分、秩父鉄道大麻生駅前

交通：秩父鉄道熊谷 9:09 発、または寄居 8:49 発に乗車。

担当：中里、和田、後藤、森本、大澤、新井(巖)、倉崎、高橋(ふ)、藤田(裕)、栗原、飛田、千島、鶴飼

見どころ：花の香をのせた風が土手を渡り、新緑が目や心を癒してくれます。ツバメが目の前で行き交い、遠くからも鳥の声が聞こえてきます。渡り途中の夏鳥との出会いもあなたを待っています。

### さいたま市・秋ヶ瀬公園自然観察会

期日：5月13日(日)

集合：午前9時、秋ヶ瀬公園ピクニックの森駐車場。

交通：浦和駅西口から荒川運動公園行きバス 8:17 発、または東武東上線志木駅東口から与野駅西口行きバス 8:25 発で「下大久保」下車、徒歩約8分。

担当：小荷田、佐久間、杉原、藤田(敏)

見どころ：今回のテーマは絶滅危惧種Ⅱ類のチョウジソウ。ピクニックの森の草原で共に生育している草の種類を調べます。チョウジソウの生育がなぜ危ないかを考えながら観察しましょう。植物図鑑とルーペを持参ください。

ご注意：研究部担当の自然観察会です。もっぱら下を向いて、植物を観察します。鳥は……いれば、ちょっと見るかもしれません。

## 加須市・加須はなさき公園探鳥会

期日：5月13日（日）

集合：午前8時45分、東武伊勢崎線花咲駅西口、または午前9時、加須はなさき公園駐車場。

交通：JR宇都宮線大宮8:01→久喜8:22着で、東武伊勢崎線春日部8:21→久喜8:34発に乗り換え、花崎8:41着。

担当：長嶋、内田、宮下、四分一、栗原、植平、鬼塚、長谷川

共催：加須はなさき公園管理事務所

見どころ：7回目の共催探鳥会。初心者大歓迎。風薫る新緑の公園を、上着を脱いで、鳥になった気分です。ダイサギが優雅に舞い、オオヨシキリが、時は今と、美声を聞かせてくれることでしょう。

## 『しらこぼと』袋づめの会

とき：5月19日（土）午後3時～4時ごろ

会場：支部事務局108号室

道順：浦和駅西口から県庁通りを少し進んで三菱UFJ信託銀行の角を左折。旭通り商店街を進んで最初の信号を直進。次の三叉路は真ん中の道を進み、高層マンションの脇を通りすぎたところ、右側の茶色の5階建てマンション、1階です。徒歩3～4分です。

## さいたま市・三室地区定例探鳥会

期日：5月20日（日）

集合：午前8時15分、京浜東北線北浦和駅東口、集合後バスで現地へ。または午前9時、さいたま市立浦和博物館前。

後援：さいたま市立浦和博物館

担当：楠見、福井、倉林、渡辺（周）、若林、小菅、赤堀、新部、青木、増田、宇野澤、須崎

見どころ：見沼田んぼが一面のグリーンの世界になります。例年のごとくカッコウが鳴き、工事の終わった芝川でオオヨシキリが赤い口をあけています。鳥は元気です。人も元気にお出かけくだ

さい。

## 長野県・戸隠高原探鳥会（要予約）

期日：5月26日（土）～5月27日（日）

詳細は4月号をご覧ください。

## 狭山市・入間川定例探鳥会

期日：5月27日（日）

集合：午前9時、西武新宿線狭山市駅西口。

交通：西武新宿線本川越8:40発、または所沢8:33発に乘車。

担当：長谷部、高草木、中村（祐）、山本（真）、久保田、石光、山田（義）、山口

見どころ：初夏の楽しみは繁殖期の鳥たち。ツバメ、ホオジロ、シジュウカラなど見慣れた鳥たちも、子供たちをつれていたら興味倍増。

## もしかしたら温暖化の影響？

事例をお寄せください（編集部）

野鳥について「もしかして、地球温暖化の影響では？」と思われる事例に出会ったことはありませんか。例えば、昨年県内でシロハラクイナが繁殖したのも、温暖化の影響で生息域が北上しているのでは？ この冬、埼玉県内でカモの飛来が少なかったのは、暖冬のせいで、あまり南下しなかったからでは？ などなど。

科学的な筋道で正確に論証できなくても、「もしかしたら？」と感じる例はたくさんあるのではないのでしょうか。

- ① いつどこで
- ② 何が
- ③ こういう状況だ
- ④ それは、もしかしたら、こういうことで、地球温暖化の影響では？

という事例をお寄せください。メールの場合は、yamabezuku@hotmail.com または支部のホームページから「支部事務局宛メール」へ。郵便またはFAX 048-825-0460でもお受けします。

出来ましたら、その事例に関連した写真も添えてください。



## 行事報告

12月16日(土) 『しらこぼと』袋づめの会  
ボランティア：8名

新井浩、江浪功、海老原教子、大坂幸男、尾崎甲四郎、後藤康夫、千野安以、藤掛保司

12月17日(日) 加須市 加須はなさき公園  
参加：50名 天気：曇

カイツブリ カワウ アオサギ マガモ カルガモ コガモ オカヨシガモ ヒドリガモ オナガガモ ハシビロガモ オオタカ チョウゲンボウ バン イソシギ キジバト カワセミ ハクセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ アカハラ シロハラ ツグミ ウグイス ヤマガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ カケス オナガ ミヤマガラス ハシボソガラス ハシブトガラス (39種) 公園側と共催5回目の探鳥会。参加者の半数が黄色いリボンを付けたビギナー向け探鳥会になった。ヒドリガモが岸辺で草を食べる姿、チョウゲンボウが梢で機会を窺う姿、カワセミが甲高い声と共に飛去する姿等、身近な鳥の行動に惹かれたようだ。少し慣れた参加者を対象としたウソの亜種識別の話はタイムリーだったが、肝心のウソが出なくて残念。終了後の入会希望者1名が嬉しかった。(長嶋宏之)

12月17日(日) 滑川町 武蔵丘陵森林公園  
参加：44名 天気：曇

ダイサギ カルガモ コガモ ツミ ノスリ キジバト アオゲラ アカゲラ コゲラ ヒヨドリ モズ ルリビタキ ジョウビタキ ツグミ ウグイス エナガ コガラ ヒガラ ヤマガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ アオジ カワラヒワ シメ スズメ カケス ハシブトガラス (28種) 12月も半ばだというのに暖かい。手袋をはめないで三脚が担げるなんて信じられないくらいだ。山田大沼を急遽やめて、長沼、栗谷沼に向かった。今年は冬の小鳥が多いので、出そうなコースというわけだ。半分当たりで、エナガがコース全体で

しっかり出てくれた。こんなに出てくれたのはこの探鳥会で初めてではないだろうか。各地に飛来が多いウソの声も姿もなかったのは、期待が外れていささかがっかりだった。森林公園には実なる木が少ないのか。カモ類はそもそも期待しなかったけれども、それでもカルガモとコガモを併せて9羽。ひどい記録だ。一方、キツツキ科で3種、シジュウカラ科で4種の出現は、今までのここの探鳥記録にないのでは。森林公園には期待するものが大きいだけに、半分納得、半分残念の探鳥会だった。(内藤義雄)

12月17日(日) さいたま市 三室地区  
参加：57名 天気：晴

カイツブリ カワウ ゴイサギ ダイサギ アオサギ マガモ カルガモ コガモ ハシビロガモ キジ クイナ バン ユリカモメ セグロカモメ キジバト カワセミ アオゲラ コゲラ ヒバリ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ アカハラ シロハラ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ カケス オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (43種) 芝川の工事が再開されたので、コース取りに十分工夫する。三室の探鳥会はいろんな道を歩けるが、今回は田んぼの中の土の道、代用水沿いの藪道、芝川の土手と変化を付ける。出現鳥は43種と歴代2位(1位は平成12年3月の44種)で、全員満足する。良い年越しの探鳥会になった。(楠見邦博)

12月23日(土、休) 年末講演会  
参加：73名 場所：さいたま市会館うらわ



第1部では、今年から始めた「この1年、私のこの1枚」と題してのデジスコ写真には、長嶋宏之、大澤祐、町田好一郎、山部直喜、長野誠治、内田孝男、浅見徹会員からの作品が、「ビデオで振り返るこの1年」では町田好一郎、手塚正義、海老原美夫会員からの5作品が上映された。

第2部の講演では、(財)日本野鳥の会から安西英明氏をお招きして、「身近な鳥の不思議」と題し、氏の近著である『スズメの少子化、カラスのいじめ』の内容などを織り交ぜた興味深いお話をしていただき、アツと言う間に1時間半が過ぎてしまった。

その後、会場を支部事務所に移し、希望者と安西氏を囲み、講演の続きの話や鳥談義に花が咲き、年末のひとときを過ごし、無事に解散となった。

(橋口長和)

12月24日(日) 幸手市 宇和田公園

参加：36名 天気：晴

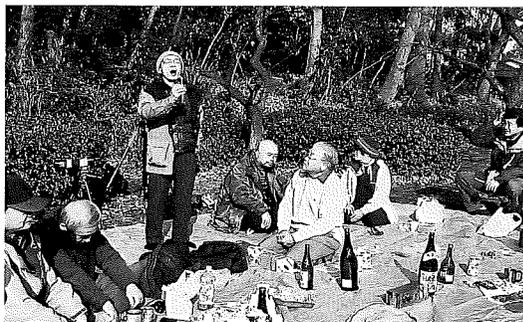
カワウ コガモ ノスリ ハヤブサ チョウゲンボウ キジ イソシギ シラコバト キジバト カワセミ コゲラ ヒバリ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ アカハラ シロハラ ツグミ ヤマガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ オオジュリン カワラヒワ ベニマシコ ウソ シメ スズメ ムクドリ カケス オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (38種) 早朝からの強風も和らいで、気持ちよくスタートした。公園の緑地帯ではメジロとシメが大変数多く見られた。中川のアシ原に出ると、アカハラがヤナギの枝に出てきてくれた。初めて見るというある女性は大変興奮していた。しばらく行くと対岸の梢でノスリがじっとして辺りの様子をうかがっているよう。皆でじっくり観察できた。上空ではチョウゲンボウが風に逆らって舞っていた。最後は鳥合わせ場所でカワセミが出て楽しませてくれた。この幸運を来年につなげよう。(中里裕一)

1月3日(水、休) さいたま市 さぎ山記念公園

参加：47名 天気：曇後晴

カイツブリ カワウ アオサギ カルガモ コガモ オカヨシガモ ヒドリガモ オナガガモ ハシビロガモ キンクロハジロ オオタカ チョウゲンボウ バン オオバン イソシギ キジバト コゲラ ヒバリ キセキレイ ハクセキレイ セ

グロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ アカハラ シロハラ ツグミ ウグイス ヤマガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ アオジ カワラヒワ ウソ シメ スズメ ムクドリ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス (42種) 出現種数は最多タイ記録。ヤマガラとウソがここでは初めて。ともに県内各地でこの冬は多い。ウソは亜種アカウソ。10数羽の群れを、全員がじっくり観察。野外懇親会では羽のないアカウソが多数出現。加えて、例年通りのシロガシラ アカショウビンも。最後は「ふるさと」の合唱でシメたのです。(海老原美夫)



1月5日(金) 滑川町 武蔵丘陵森林公園

参加：51名 天気：快晴

カイツブリ カワウ アオサギ マガモ カルガモ コガモ ヨシガモ オカヨシガモ ヒドリガモ オナガガモ ハシビロガモ ホシハジロ キンクロハジロ トビ ノスリ コジュケイ バン オオバン キジバト カワセミ コゲラ ハクセキレイ ピンズイ ヒヨドリ モズ ルリビタキ ジョウビタキ トラツグミ シロハラ ツグミ ウグイス エナガ ヤマガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ アオジ ベニマシコ ウソ シメ ムクドリ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス (44種) スタート直後、後方はカワセミ、前方はベニマシコに、歓声が聞こえた。前日の下見では、あざみくぼ沼にオシドリが♂♀4羽いたので、朝の挨拶で紹介したが、マガモと交替していた。山田大沼には、ヨシガモ♂1羽、ハシビロガモ♂♀なども。鳥合わせでは、トラツグミ、ルリビタキなどを見た人達も。お弁当は芝生の上で、ジョウビタキを見ながら食べた。「武蔵丘陵森林公園の自然を考える会」代表の谷津弘子さんから、今後の計画の紹介があった。(藤掛保司)



●「農家と野鳥の会の交流イベントー米作り体験」田植えの日程が決まりました

5月3日(休日)午前10時に集合、田んぼの四隅で手植え体験をして、あとは機械植えに任せます。あちこちの田んぼで田植えが進むのを土手の上から眺めながら、おにぎりをほおぼります。予備日は5月4日(休日)。

申し込みしようと思いがらつい忘れていた方、今からでも間に合います。

または支部ホームページの文部事務局宛メールで、どうぞ。詳しくは4月号本欄をご覧ください。

●「渡良瀬遊水池をラムサール条約登録地に」署名活動終了します

担当している内田孝男幹事からの連絡によれば、3月31日をもって署名活動を終了し、5月12日に第二次分を提出、6月以降に集計内容を報告するとのこと。

平成18年度当支部の重点事業のひとつとして力を入れてきた活動です。皆様の大変多くのご協力をいただきました。直ちに目に見える成果が現れなくても、ラムサール条約登録に向けて大きな一歩になったものと確信しています。ご協力、本当にありがとうございました。

●普及活動

3月10日(土)午前9時から12時まで開催された「坂戸市環境会館いずみ」主催講座「バードウォッチングウォーキング」で、坂口稔、増尾隆両リーダーが指導、浅羽ビオトープまで歩いて35種を観察しました。

●鳥獣保護員推薦

平成19年度埼玉県鳥獣保護員の推薦依頼を受けて、小荷田行男、福井恒人の2名を、前年度に引き続き推薦しました。

●事務局の予定

5月6日(日) 編集部・普及部。(土曜日ではありません。連休最後の日曜日に変更しました。ご注意ください)。

5月12日(土) 6月号校正(午後4時から)。

5月19日(土) 袋づめの会(午後3時から)。

5月20日(日) 役員会(午後4時から)。

●会員数は

4月1日現在2,253人です。

活動報告

3月10日(土) 4月号校正(大坂幸男・喜多嶋次・志村佐治)。12日(月)同(海老原美夫)。

3月10日(土) 都内渋谷区で開催された本部評議員会とその後の懇親会に、関東ブロック評議員として橋口長和、理事として海老原美夫、傍聴人として藤掛保司支部長、小林みどり幹事が出席しました。

3月17日(土)「天国の蒲谷鶴彦さんと野鳥の声を聞く会」に、松井昭吾支部顧問、藤掛保司支部長、海老原美夫本部理事が出席。約200人が集まり、1月に天国に逝った野鳥の声録音のパイオニア、蒲谷さんを偲びました。

3月18日(日) 役員会(司会:石川敏男、次期役員について・その他)。

3月22日(木)「支部報だけの会員」に向けて4月号を発送(倉林宗太郎)。要予約探鳥会の案内があったので、発送日を調整しました。

編集後記

「Today birds, tomorrow men.」という言葉があります。野鳥は環境の変化に敏感で、人類より先にその影響を受けます。そしてその環境変化は、次は人類に影響を及ぼします。地球の温暖化が、今、野鳥たちの渡り時期などを狂わせ、生息域を変更させているのなら、明日は、人類の生存条件を狂わせ、生息域を変えてしまうのでは? (海)

しらこぼと 2007年5月号(第277号) 定価200円(会員の購読料は会費に含まれます)

発行人 藤掛保司 編集発行 日本野鳥の会埼玉県支部 郵便振替 00190-3-121130

〒330-0064 さいたま市浦和区岸町4丁目26番8号 プリムローズ岸町107号

TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460 http://35.tok2.com/wbsjsaitama/

編集部への原稿 yamabezuku@hotmail.com 野鳥情報 toridayori@hotmail.com

住所変更退会などの連絡先は 〒151-0061 渋谷区初台1-47-1 小田急西新宿ビル1階

(財)日本野鳥の会 会員室会員グループ TEL 03-5358-3511 FAX 03-5358-3608

本誌掲載記事はホームページに転載されます。本誌またはホームページからの無断転載は、かたくお断りします。再生コート紙を使用しています。印刷 関東図書株式会社